

しが国際協力親善大使レポート

やまね たかひと
山根 孝仁さん

隊次：2015年度1次隊

職種：小学校教育

派遣国：ブラジル

プロフィール

はじめまして。ブラジルサンパウロ市のマルピアラ学園で活動している山根孝仁です。滋賀県の長浜市出身で、愛荘町内にある小学校で勤務していました。大学卒業後、4年間学級担任を経験した後、日系社会青年ボランティアとしてブラジルにきました。大学在学中から「海外で生活してみたい。」という思いを抱いており、その思いを抱きながら小学校教諭として日々奮闘していました。時間を見つけては開発教育セミナー等に通い、そこで出会った様々な人の価値観に触れながら、一層海外経験への思いを強くしていきました。当初は青年海外協力隊としてアフリカに派遣されることを夢見ていました。しかし、教師として生活する中で、南米国籍の児童が言語の壁に直面する現実を目にしました。「もし自分がポルトガル語を話すことができれば」と考え、海外経験を積める、ポルトガル語を話すことができるようになるという一石二鳥の方法がこの日系社会青年ボランティアでした。

活動している国 地域の気候や文化の紹介

ブラジルというと年中暑いイメージがありますが、私の住むサンパウロ市は標高700mにある街なのでとても涼しいです。夏でも夜になると寒いくらいで、クーラーや扇風機を使わなくても十分快適に過ごすことができます。しかし、治安の悪さはイメージ通りと言ってよいかもしれません。「夜の8時以降に出歩くときはタクシーを使え」「この地域には行っちゃダメだ」「アジア人というだけでターゲットにされている」と言われているので、常に警戒心をもって生活しています。日曜日は、ほとんどの店がお休みです。「休むときは休む！」プライベートと仕事の区別がハッキリしていて、家族と過ごす時間を大事にするブラジルの文化に比べて、やはり日本は働きすぎなんだなぁと感じています。

活動や生活について

私が勤務するマルピアラ学園は、幼稚園から高校までの一貫私立学校です。まず驚いたのは、通常の授業が午前か午後の半日しかないことです。生徒の多くは朝7時から12時半までの午前中のクラスに通っています。宿題が多く出されたり、英語の学習塾に通ったりしているようですが、どのような過ごし方をしているのかはいまだに疑問です。

任地に入って6ヶ月。日本語教育や学校に通う日系人への支援をして配属先である学校に貢献したいと考えてブラジルに来たのですが、理想と現実のギャップにかなり落ち込みました。3ヶ月のトレーニングをしたにも関わらず、話している言葉が全くわからないし、伝えることも未だにできません。言葉が通じないことがこれほど苦しいものだとは思いませんでした。その上、学校の中で私ができる仕事も非常に少なかったのです。週2回の午後、日本語教室のALTのような立場で、そこにいるだけ。午前中は全て、私のポルトガル語能力の向上を狙いとされた5、6、7年生の授業見学。当然、先生の話している言葉がわからないので、私が子どもたちに内容を教えてもらっていました。授業の終わりがけ、7年生の児童に「Entendeu?(わかった?)」と聞かれ、「Não entendi nada. (何もわからなかったよ。)」と答えて笑われた時のことは、今でも心に残っています。日本では忙しく仕事をしてきた印象しかなかったので、いきなり持て余すほどの時間をもらって、私は何のためにここにきているのだろうと悩みました。(現職の教員は同じような悩みを抱えることが多いそうです。)ここまでが最初の3ヶ月です。それからJICAに相談する等して、1週間体育の授業を担当したり、日本語教室の授業をさせてもらったりしましたが、状況が改善したとは言えないまま、1ヶ月の夏休みを迎えました。この夏休みが終わるころ、ブラジルは新年度を迎えます。この1年間で勝負です。私はパソコンを触りにブラジルにきたのではない。心を入れ替えて、前のめりにチャレンジしていこうと思います。

私は今まで「自分で仕事を取りに行く」ことは、経験したことがありませんでした。しかし、民間企業や銀行員であれば、それは当然のことであり、当たり前のことなのかもしれません。新年度は決意を胸に、当初からの目的であるポルトガル語が話せるようになることを第一目標にして、ここでしかできない経験を重ねていけたらと思います。



授業風景 年の違う子どもたちが一緒に勉強しています。(日系の子も非日系の子も一緒に)



日本語教室の生徒と私の前々任ボランティア 学校とブラジルが気に入って、
毎年夏に学校に遊びに来てくれています。



おやつ時間 日本でいう中休み 学校には売店もあって毎日行列ができます。



学校で唯一日本語がペラペラに話せる校長先生と生徒 この方々のおかげですごく助かっています。この生徒が12月で卒業してしまったので来年からが心配です…。



12月に行われた5年生の卒業式 お家の方からサプライズの歌のプレゼントがありました。

しが国際協力親善大使レポート

やまね たかひと
山根 孝仁さん

隊次：2015年度1次隊

職種：小学校教育

派遣国：ブラジル

プロフィール

サンパウロ市にあるマルピアラ学園で活動している山根孝仁です。滋賀県の長浜市出身で、愛荘町内にある小学校で勤務していました。「海外で生活してみたい」という夢を追いかけて JICA ボランティアに応募しました。当初は青年海外協力隊としてアフリカに派遣されることを夢見ていましたが、教員として生活する中で外国籍児童(特に多かったのが南米国籍の児童)が言語の壁に直面している現実を見て、「南米での経験は教育現場に生かすことができる」と考え、日系社会ボランティアを志望しました。

活動している国 地域の気候や文化の紹介

ブラジルの気候や治安のことについては昨年の記事に書いたのでここでは割愛させていただきます。「ブラジルと日本の違い」について考えたことをこちらに書かせていただけたらと思います。

今日まで私は1年半ブラジルで生活してきて、その考え方や宗教観、生活習慣等、様々な面で多くの違いを感じてきました。教育の現場や日常生活の中でやり方や態度に疑問を抱くことも多く、いつも私は「日本だったら」と考えてしまいます。例を挙げると、授業中に教師が携帯を触っていることや店員が接客をせずおしゃべりばかりしている所を見た時等です。しかし、そうした時に「それは間違ってるよ！」と声を大にして批判したり日本のやり方・考え方をブラジルに押し付けたりするのは間違いで、金子みすゞの「みんなちがってみんないい」という多様性の在り方の視点を自分の中に持つことの必要性を感じています。多くの違いを感じる毎日だからこそ、こちらにきてから「日本」という国そのものについて考えることも多くなり、今まで気付かなかった日本の良さに気付くこともできました。だからといってブラジルは日本より良くない！というわけではなく、このブラジルに居を構え仕事をするのができたことで初めてブラジルという国の本質をとらえることができたように思います。その違いはあまりに大きく、日本人として生きてきた私の根底を覆されるような実感を覚えるほどです。ブラジル人の国民性を端的に表す言葉として[Jeitinho Brasileiro]という言葉があります。「ブラジル人は(本番までに)何とかする」という意味の言葉です。昨年行われたリオデジャネイロオリンピックはまさにこの典型だったように思います。ある人は「ブラジル人は人生を楽しく生きる天才」だと称し、こう

した考え方や文化の中で生活を営む世界にどっぷり浸かって日々を過ごすことができたことは私の人生の財産であり貴重な経験となりました。

活動や生活について

私が勤務するマルピアラ学園は、幼稚園から高校までの一貫私立学校で、赴任当初日本語クラスは希望者だけの課外活動(有料)として行われていました。日本語クラスを担当している日本語の先生がおられる中で、日本語教育の専門的な知識もなくポルトガル語も十分に話せない、また、これといった特技もない私には「日本語を教える補助」や「日本の話をする」ことしかできなくて、「私は何のためにここに来たのだろう」と悩んだのが最初の6ヶ月でした。そのときのお話は昨年の記事に書かせていただきました。

それから1年の月日が経ち、生活や文化の違いに慣れると共に自分にできることも増え、子どもや学校に貢献する活動が少しはできたように思います。具体的には、①私が授業をする日本語クラスを新設(無料)②幼稚園での日本語授業③日本文化の授業④正規のカリキュラムの中での日本語教育のALT(外国語指導助手)⑤本校初開催となる運動会を主催⑥日本語の先生への指導法の提案等々です。昨年の記事で「自分で仕事を取りに行く」ということを書きましたが、今年度は校長先生の「学校の中に日本語教育を充実させよう」という意向から自然と仕事が湧き、その責務を果たすのに一生懸命で「自らの努力」は今一つであった印象です。しかし、自分の行いが誰かの為になり、子どもや保護者、先生に喜んでもらえたというのはとても嬉しいことです。

また、私は「ポルトガル語を話せるようになること」を目標の一つに設定していましたが、その達成度はまったくと言っていいほど納得のいく結果には至っていません。言葉の違う環境で生活すること、仕事をする事、話している内容がまったくわからないこと、そのことを嘲笑されること、その「怖さ」を知りました。先日友人に「1年半生活してめちゃくちゃなポルトガル語しゃべってんじゃねーよ」と言われることもありました。こうした言語体験もまた私のブラジル生活での宝です。

最後になりますが、私は日系社会ボランティアに参加することができて本当に良かったです。等身大の自分で任地と勝負をして自分の足りないものに気付き、自分と向き合い、また立ち向かうという経験ができたからです。これからも刺激し合える同期の仲間巡り逢えたこともその理由の一つです。支えてくださった全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。



文化祭で日本のお茶会教室を担当しました



小学校での Undoukai の集合写真



幼稚園での運動会の様子



幼稚園での日本語授業の様子



日本語教室の生徒と。大好きな生徒たちです